中国の社会教育施設の実態調査とその分析
―フフホト市少年宮を中心として―

白　雪　晴

要　旨

中国在社会教育的发展和研究等各方面还处于起步阶段，远远落后于世界先进国家。虽然近年来，国内对社会教育，终身学习等课题有很大的重视，可是，关于中国社会教育研究的学者不多，中文文献中可以借鉴的研究成果也很少。所以我认为，在进行中日社会教育比较研究的时候，首先急需进行对中国社会教育的发展现状的研究。在变化多端的现代中国社会，要把握住社会教育的现状是件很不容易的事。因此，笔者选择了实地调查的方法来寻找答案。在中国内蒙古自治区的首府呼和浩特市，以社会教育中重要组成部分的青少年教育机构为重点，今年三月进行了为期一个月的调查。本文把其中关于少年宫的调查内容及分析加以整理发表，以便下一步对中日社会教育进行全面比较研究。

キーワード……社会教育　青少年教育　少年宮　現地調査

はじめに

日中両国の社会教育を比較研究しようとするとき、いくつかの問題に直面することになる。その一つとしては、現在中国では、社会教育の研究者が少なくて、また、有力な文献も極めて不足している。このため、中国の社会教育の現状を把握するのは、大変困難なことと感じる。そこで、その把握の手かがりとして、筆者は現地調査の研究方法を使うこととした。故郷の内モンゴル（蒙古）自治区のフフホト（呼和浩特）市を中心として、その都市中心部と農村部にある、いくつかの社会教育の施設に足を運び、2004 年 3 月の一ヶ月間をかけて調査した。

本文は、青少年学校外教育施設であるフフホト市少年宮についての調査内容および、その分析である。

調査はあらかじめ一定の質問項目を定め、フフホト市少年宮を訪れて、実際に職員に質問した。そしてここから得た情報や授業風景などの総合的な現状調査と、その施設を利用する青少年の親に対するアンケート調査という二つの方法で調査をし、分析した。この調査内容とその分析によって、フフホト市少年宮を通して現代中国の少年宮の全貌を把握することができると言えよう。

なお、本文の研究結果を、これからの日中両国の青少年社会教育における比較研究の基礎として、さらに今後、その研究を深めていきたい。

一．少年宮とは

中国における学校外教育は、ソ連の影響の下「校外教育」として、1950 年代から制度化されている。最も古い学校外教育機構は、1947 年に、宋慶齢が上海に創設した中国福利会の少年児童文化館と図書館を母体に、1953 年設立した中国福利会少年宮である。

中国では、1957 年に、中央青年団と教育部（文部省）が公布した『少年宮と少年の家についての規定』が、初めての学校外教育に関する法規性をもつ公文書である。この規定によって、初めて中国で、少年宮は青少年の学校外教育施設の地位を占めるものとして定められた。

この『少年宮と少年の家についての規定』で、少年宮、少年の家が対象としたのは、「中学校・小学校および学校外の少年児童」と規定されている。これに基づいて、少年宮の対象は、「小・中学校の児童と少年であり」、原則的には、6 歳から 14 歳までだと判断できる。しかし、実際の少年宮の運営や活動を調べると、4 歳の学前児童から、高校生まで参加が可能で、希望により大学生すら参加できる。だから、以下の文章では、中国語の法規的な公文書に出ている「少年児童」を、そのままに使用することにした。

1957 年に、公布された『少年宮と少年の家についての規定』、この規定において、少年宮の基本的役割が、以下のように定められた[1)]。少年宮、少年の家は、学校教育の補充と延長としての役割を果たすものとする。ここでは若者に共産主義教育を通じて、優れた道徳意識を育て、学校外で得られる知識を身に付けさせることによって、生活を豊かにすることを目標としている。加えて、少年児童のあらゆる面での趣味と才能を開発し、その関係する技能を鍛えて、熟練させることなども目標にしている。いわゆる、少年宮の役割は、社会主義の教育事業の重要な部分であると規定されている。

その後、少年宮に関係する重要な公文書は以下のとおりになる。

まず、1987 年、国家教育委員会、中央青年団が、『少年宮の事業を強めるための意見』および『少年宮（家）の事業に関する条例（草案）』を公布した[2)]。ここで、少年宮は、総合的な少年児童の学校外教育の施設であり、社会主義の精神文明建設の重要な施設であり、また、大切な活動の場所であると論じた。それに、少年児童を育て、教育するには欠かせない学校外教育の施設であり、活動する場所でもあると強調している。少年宮の教育目標は、学校と一致していて、少年児童に実践で多種多様な教育手段を通じて、彼らの全面的な成長を実現するようにしている。少年宮の事業は、少年児童に科学技術、文学・芸術、スポーツなど各種の活動を通して、彼らの才能や技能を育てるとともに、彼らに共産主義の思想・道徳教育も十分に重視して行わなければならないとしている。

その後、1991 年、国家教育委員会、放送・映画・テレビ部、文化部、全国総工会（労働者組合）、中央青年団、全国婦人連合、中国科学協会は、『少年児童の学校外教育事業における改進およびそれを強めるための意見』を公布した。そして、1995 年、国家教育委員会、文化部、国家体育運動委員会、全国総工会（労働者組合）、中央青年団、全国婦人連合、中国科学協会は、『少年児童を対象する学校外教育機関・事業についての規定』を全国に通告した。1996 年、国家教育委員基礎教育司、中央青年団少年部、全国婦人連合児童部は、『少年児童学校外教育の施設に対する評価基準（草案）』を公布した。

以上のような法規的な公文書で、中国の少年宮は学校外施設であるという法的な性格が完備された。要するに、少年宮の基本的役割は、各種の活動を通じて、少年児童に対して、祖国、社会主義、人民、集団（個人に対するクラス・学校など）、労働を愛する教育を行うことである。そして、少年宮の活動には、少年児童の自由意志によって参加できると規定されている。活動内容には、思想教育活動、文学芸術教育活動、科学技術教育活動、スポーツ、娯楽活動という項目がある。少年宮は、少年児童の視野を広め、学校では学習できない知識を学習させ、多方面にわたり興味を持たせ、趣味や特長を発展させることでもある。さらに、実践の中で心身とともに発達させ、才能を伸ばし、意志を鍛え、少年児童の日常生活での自立能力や、道徳規範意識と社会性を養い、体をよく動かし、よく考えるなどよい品性と徳性を培い、全面的な成長を促進することでもある。少年宮は、少年児童の学校外活動のトレーニングや指導センターである。また、学校、少年先鋒隊（少年児童のエリート集団を育成する団体）が、学校外活動を行う際に、少年宮は、それを指導したり、学校で行う学校外教育の中堅をトレーニングもしたりすることが、重要な活動内容である。それに開放都市では、少年宮は国外の青少年との文化交流の役割も担い、各都市の対外宣伝、友好の窓口ともなっている。

少年宮以外に青少年社会教育の機関として、少年科学技術センター、少年児童図書館、青少年宮、青年宮、郊外キャンプ地、そして、町や企業などが作った少年の家、少年活動センターなどがある。また、児童公園、児童書店、児童劇場、児童映画館、成人文化宮、クラブ、体育館、遊園地、そして学校教育に対応できる文化館、文化宮、博物館、展覧館、図書館などもその役割を果たすと見なすことができる。例えば「成人文化宮」「博物館」などの施設は、青少年社会教育の専用の施設ではないが、青少年に対する社会教育も、その施設の事業の一部分になっている。また、児童刊行物、ラジオ、テレビもそうした側面を持つ媒体である。

学校外教育の施設は、基本的に二つのタイプがある。一つは少年宮、少年児童活動センター、少年の家のような総合的なものである。もう一つは少年科学技術ステーション(館)のような専門的なものである。

これらの青少年の学校外教育施設の設置者をみれば、二種類があるが、その大部分は地域社会や住民によって作られたものである。そのほか、教育委員会や教育局、共産主義青年団または婦女連合会などの国家教育行政部門によって設立されたものはほんの少数である。

二．内モンゴル自治区フフホト市少年宮の概観および現状

（一）．フフホト市（呼和浩特市）少年宮の概観

内モンゴル自治区は, 中国の経済発展が遅れている西部にあるため、教育関連事業において、全般的に中国でかなり低いレベルの現状にある。

内モンゴル自治区は、1947 年 5 月 1 日に設立され、中国では初めてつくられた少数民族自治区である。面積は 118.3 万 k ㎡、中国で 3 番目に広い行政区であり、人口は 2,376 万人、うち少数民族は 475 万人を占めている。主要産業は、牧畜、林業、冶金などである。自治区は、日本の新潟県で言えば上越、中越、下越地区にあたる 7 市 5 盟、および新潟県の北蒲原郡、西蒲原郡などにあたる 101 旗、県、県級市（郡レベルの市）で構成されている[3)]。ここの「盟」「旗」の使い方は、中国の中でもモンゴル自治区特有な呼び方である。

自治区の中部にあるフフホト市（呼和浩特市）は県庁所在地で、面積は 1.72 万 k ㎡である。フフホト市が 4 区、4 県（郡）、1 旗（郡）という行政計画を持っている。2000 年第五回全国国勢調査によると、市内の人口は 243.79 万人であり[4)]、自治区全体の約 10%を占めている。自治区すべての学生数の中で、県庁所在地のフフホト市の学生数が、その中の大部分を占めている。フフホト市の教育は、内モンゴル自治区の重要な中枢にあり、教育の中心と言える。その理由としては、自治区内において学生数が高い比率を占めるだけではなく、各教育機関の数や設備なども自治区内では、一段と充実しているからである。本文の以下の重要な内容として紹介するフフホト市少年宮は、その例の一つである。自治区内の青少年社会教育施設のうち、フフホト市少年宮は、顕著で、重要な地位を示している。

内モンゴル自治区では、近年、企業の私営化などの社会・経済事情によって、少年宮が利益にならないため、地区や企業が設置していた少年宮や文化宮が、ほぼ全部廃止となった。現在、自治区内に残っている少年宮は、7 市 5 盟の中で、包頭市の鋼鉄集団に所属する少年宮があり、それ以外では、全部自治区教育庁（局）に所属している。フフホト市少年宮以外には、5 つの少年宮があり、これらの数では自治区内の 300 万人以上の青少年の青少年施設としては、不充分な状態にあると思われる。

フフホト市少年宮は、1984 年 9 月 8 日に設置された。少年宮の建築面積は、15,834 ㎡を占めていて、新潟市中央公民館の約 27 倍である。建物は、科学技術館、遊戯ホール、文体館、天文ホール、公演ホールという五つの建物で成り立っている。また、この五個の建物が、それぞれつながっていて一体になっている。この少年宮は、斬新な形のうえに、濃厚なモンゴル建築の特徴を持つかなり壮観な建物である。主館は 12 階建の建築物で、そこの 3 階に事務室が置かれ、そこで集中的に管理されている。さらに、文体館（体育館に似たホール）は 3,000 人が収容できる規模である。

フフホト市少年宮のパンフレットで、次のように紹介してある。現在、フフホト市少年宮は、

市内唯一の少年児童の総合的な「学校外教育施設と活動の場所」として定められている。フフホト市少年宮は、このように、少年児童を対象とした総合的な学校外教育施設であることと、少年児童の活動する場所でもあるという二つの特徴を持っている。立派な建物だけではなく、少年宮屋外で遊ぶ広いスペースもあり、滑り台などいろいろな遊戯ができる道具が備えてある。フフホト市少年宮の設置の目的は、少年児童の智恵の開発と創造力の育成であり、学校外教育を指導するセンターにもなっている[5)]。

1999 年までに少年宮は、教室を開き、授業を設けた専攻が 29 種類置かれてあった。それらの種類としては、コンピュータ、武術、テニス、サッカー、舞踊、声楽、ピアノ、アコーディオン、バイオリン、エレクトーン、古箏、揚琴、琵琶、トランペット、美術、書道、卓球、英語、模型工作などである。それぞれの専攻に専用教室を設けている。また、少年作家倶楽部、少年記者、少年先鋒隊隊長などの能力とリーダー育成の専門教室も開いている。日本の青少年関係の社会教育施設と違って、中国の少年宮は授業科目を設置しており、先生一人で多くの生徒に授業を行う風景が多く見られる。この授業の様子は、50 年代から始まり、それ以来全国での少年宮の授業の形や教え方などの様子は、大きな変化はないと考えられる。

少年宮で働く職員について説明すれば、中国全土どこの少年宮も職員の数が、日本の社会教育施設に比べ、とても多いということである。フフホト市の少年宮の職員数も多く、50 人余り働いている。人気ある専攻には、多くのクラスが設けてある。例えば、ダンス専攻には 3 人の先生がいた。フフホト市少年宮の職員は、二種類に分けられる。一つは、上で紹介した 29 の種類の専門を担当する先生であり、先生たちは毎日授業をし、生徒たちに専門的な知識を教えることが主要な仕事である。もう一つは、日本と似て、授業をしない一般事務をする行政職員が置かれ、必要な事務をしている。少年宮の職員は、このような二種類にはっきり分けられている。その他に、社会から招いて、招聘任用する人が 10 人くらいいる。このような人たちは、授業やいろいろな仕事を手伝っている。少年宮の先生たちは、少年宮での仕事以外に、ときどき市内の小・中学校に行って、図工や労働などの授業の支援を行っている。内モンゴルは、モンゴル族を含む十種類以上の少数民族が集まる自治区だから、教職員の構成に少数民族が 32%を占めている。

少年宮では、参加者を「生徒」、「学生」あるいは「学員」と呼んでいる。しかし、「生徒」「学生」「学員」の区別はない。参加者は、3 歳から高校生まで含むのであるが、希望があれば、大学生の参加も可能である。子ども達が、教室を選ぶとき、見学ができると同時に、いくつかの教室に参加できる。1999 年までの 15 年の間に、フフホト市少年宮では、4 万人余りの生徒を育成してきており、そこには、少数民族の生徒が常に 25%ほど含まれていた。

中国の少年宮は、公演やコンテスト、交流などの活動を通して、少年児童に思想・道徳教育をする目的がある。例えば、民族伝統的な楽器の授業は、中華民族を知り、愛国主義教育につながっている。芸術、音楽など技能の授業と関係活動で、少年児童に良い習慣を身につけさせ、

困難に挑戦する勇気や、先生を尊敬することなどの道徳観念も教育の目的としている。さらに、交流活動を通して、国際的な観念や平和教育なども目的にしている。例として挙げれば、1995年、フフホト市少年宮の先生と生徒の 10 人が、日本の岡崎市を訪ねた。そして、1998 年 7 月 18 日には当市少年宮先生の 1 名と生徒の 18 名が日本に文化芸術についての交流活動に参加した。また、1998 年 7 月に市少年宮の 6 名の先生と 29 名の生徒が、モンゴル国での文化交流活動を行った。その一方、フフホト市少年宮は 2000 年まで、全国 25 ヵ省、市、自治区の訪問代表団、および 40 ヵ国や地域の外国訪問代表団を 70 件 2,000 人の接待をしている。フフホト市少年宮は他の地域や国に対して開放されており、この少年宮ではフフホト市内の少年児童を育成し、さらに、世界各国の人びとの友好と交流を図るなどの重要な役割を果たしている。

また、中国の社会教育は、日本の社会教育とかなり異なることがあって、「目に見える」活動の成果を重視している。具体的にいえば、少年宮のパンフレットにはその活動の成果について、以下のように紹介してある。近年、フフホト市少年宮の教育事業の運営・活動においては、様々なレベルにおいて数多くの賞を受賞している。2000 年の統計によると、フフホト市少年宮は、授業で音楽、芸術などの専門的な技能を青少年に教えているため、生徒の中の 288 人が、専門的な芸術の大学、短大などに入ることができた。また、絵画においては、400 人余りの生徒が、国内と国際での各種類の児童絵画展示会で賞状を与えられた。他に 1,835 人の生徒が国家レベルで、917 人の生徒が省（日本の県に相当する）レベルで、829 人の生徒が市レベルで奨励賞を得て、18 人の生徒が文化団体に同伴して外国で公演を行った。

中国の少年宮では、各教室での生徒募集は、行政部門の仕事として大規模に行っている。フフホト市少年宮の各教室は、1 年に 3 回生徒を募集していて、そのための自由見学もある。それ以外、楽器などの単独レッスンがある教室は、通年申し込みと授業参加が自由である。同時に夏・冬休みに短期間の育成クラスを増やすこともある。近年、市少年宮の生徒の数が、3,500 人程度であり、毎年 300 人くらいの生徒の入れ替えがある。一人の子どもが、同時に 2、3 種類の教室に参加することもある。生徒が少年宮の教室に入学したら、大部分の人が何年も通っていて、一芸を身につける感覚で本格的に勉強している。

フフホト市少年宮の授業に関係する事業は、『少年宮の生徒募集と申し込みについて』という規定において、説明されている[6)]。まず、フフホト市少年宮の役割を説明したうえに、各教室の授業料が表でまとめてある。少年宮の授業料は、自治区の物価局の基準で定めているから、私立の教室に比べると、安いという特徴がある。各教室の一ヶ月の授業料は、60 元（約 900 円）から 150 元（約 2300 円）の間である。少年宮に参加の申し込みをするとき、少年宮の生徒になるための「証明書」づくりに、手続きとして 3 元を納め、他の費用は納めなくてもよいことである。したがって、入学時には、入学金のようなものは不要である。その他、生徒の学籍カードが作られている。

少年宮の各専攻のクラスの時間割については、毎年の授業を行う期間は十ヶ月間くらいにな

る。楽器のクラスは毎週授業が一回になるが、それを除いた全部のクラスは、週に二回授業になり、毎回の授業が一時間半である。

この他、フフホト市少年宮の現状は、以下のとおりになっている。

近年、中国国内の治安が悪いうえ交通状態の混乱のため、子ども達が学校や少年宮、塾などに通うのに、全員送り迎えが必要である。その一方で、中国国内では、一般的に経済の発展を重視しすぎるために、フフホト市内には昔、自治区内や企業所有などの少年宮があったが、経費等の点で維持が難しくて、全部廃止された。したがって、フフホト市少年宮から離れている場所の子ども達が、少年宮に通うのには、大人の協力が必要になってくる。そのため、少年宮の開館曜日は、土、日は通常どおり運営され、月、火曜日が休みとなっている。

また、市少年宮では、「学前班」という教室も設けていて、3 歳から小学校に入る前の子どもを対象としている。この学前班は、「芸術学前班」とも言われていて、舞踊、美術、絵画、英語などを中心にした内容であり、4 つのクラスに分けられている。各班の人数は 50 人であり、合計で 200 人ではあるが、希望者が多いため、全員が入れるとは限らない。クラスの生徒の希望によって、寮生活もできるシステムになっていている。そのために、食事や管理の専任の職員がついている。寮生活の子どもは一人一年に 1800 元（若い夫婦 2 人二ヶ月給料に相当）の費用が必要となる。

少年宮に「児童図書室」が設けられていて、その図書室には 1,500 冊くらいの蔵書がある。土、日に開かれていて、少年宮の生徒以外でも、自由に利用できるようになっている。

（二）．フフホト市少年宮の事業

1．事業の分類

フフホト市の概観については、前述のとおりであるが、少年宮の事業は、大きく分けて二種類あるのがわかった。その一つは、少年児童を対象として 29 の専攻をおき、教室で授業を行うという事業である。もう一つは、少年児童に対する思想・道徳教育を中心する文化活動という事業である。また、少年宮の行政側に尋ねたところでは、一番大きな任務は、少年児童に愛国主義の思想教育を行うことであるという。

少年宮の授業以外の文化活動は、大半は少年宮の「教務課」（事務室）という行政組織が行っている。「教務課」では、市の少年宮の活動目標を把握し、さまざまな計画を立てる。そこで行う活動の内容は、愛国主義教育や、科学知識の普及や、少年先鋒隊の活動などを推進することである。また、夏キャンプや、子ども達の成果公演や、さまざまなスポーツなどの競技・競争を行っている。しかし、近年、このような文化活動が少なくなっている。その理由としては、各少年宮では、中国の改革・開放政策につれて、社会事情が大きく変わってきて、事業もいろいろな面で影響されている。かつての中国の計画経済市場が経済市場に変ったことにつれて、大学や公的な施設などの国有の機構も、職員の生活の質を高めるために、事業の営利状況を重

視する傾向がある。例えば、各大学では受験対応のクラスを作ったり、通信クラスを作ったりしている。同様に、少年宮でも先生たちの収入は私立の学校の先生とくらべて少ない。私立との収入の差を縮めるために、少年宮は教室の部屋を各担任の先生に任せる形にしており、少年宮の先生は、生徒の数が多ければ、いくつかのクラスを担任することができる。つまり、先生たちは、一年で一定の金額を少年宮に納めたら、残ったお金は先生個人の収入になり、生徒が多ければ多いほど、先生の収入が多くなるようになっているのである。このような状況から、少年宮の部屋は他団体やクループなどに利用されることが難しくて、利用はごく少ない状況である。少年宮を持つ部屋は、ほぼ少年宮内の先生が責任を持って教室を開いている。たとえ少年宮以外の人たちに部屋を貸してある場合でも、決められた金額を少年宮に納めることになっている。その金額もかなり高いということである。

こうした事情の中で、中国の少年宮は、教室の授業を中心にして運営されていると言えよう。

中国の少年宮では、日本の青少年学校外教育の施設と違うところがたくさんある。その一つは、日本の私立の習い事教室や塾で行われていることが、中国の少年宮では、一つの大きな事業として行われていることである。中国でも近年、私立の習い事教室や塾がたくさん作られているのにもかかわらずである。日本人の中にはなぜ、少年宮がこれらと同じことをする必要があるのか、という疑問を持つ人もいるであろう。

フフホト市では、少年宮以外の青少年を対象とする公的な専門施設はないが、私立教室はたくさんある。表面的な形式から見たら、中国の少年宮の授業は、私立の教室や塾と同じことをやっているようにみられるかもしれない。しかし、少年宮は、私立の習い事教室との違いが、行政上だけではなく、さまざまな面において、たくさん存在する。

まず、少年宮は他の個人教室と比べ、土、日曜日や夏、冬休みを利用したスケート、水泳などの季節的な臨時教室も開いている。私立教室では、先生の数や指導力が足りないことから、このような臨時教室は、大きな利益につながらず、設置される可能性は少ないと思われる。

それに、少年宮の各教室は、全国の競争や試合に多く出ることで私立の教室との違いを浮き彫りにしていると考えられる。中国では、公演のチャンスと競争で賞を取ることをねらって、少年宮に入った生徒は少なくないという。本文最後の筆者のアンケート調査によると、子ども達に対して全国で公演やコンテストに参加できることは、大変喜ばしいことで、少年宮で一番楽しいことだと思っている子どもが多いということがある。そのうえ、多くの親は、公演・コンテストによって、子どもが少年宮で習った技を鍛え、習った成果を確認できると考えているようである。中国では、特別な技能を持つ子どもが、国定試験のある資格に合格できれば、高校や大学の受験で、一定な点数として加えることになっている。そのため、大半の親が、全国に公演に行けることが子どもの成長に有利なチャンスだと思い、子どもに一つの技能を身につけさせれば、受験にも有利だし、子どもの将来にも役に立つと考えているようである。少年宮のひとつの教室の生徒数が多いために、一人の先生は、一度に多くの子どもを対象にして指導

することが大変だが、各種、いろいろなレベルの公演・コンテストに参加できることはメリットになる。その一方で、私立の大半の教室は生徒数が多くないため、全国の公演などに参加できる可能性が少なくなると思われる。また、各地に出かける際の生徒の責任や管理、そして先生の参加費用なども問題となると思われる。

また、少年宮では、「目に見える」成果を重視するため、全国でさまざまな賞を得ることになり、少年宮の先生は個人教室の先生よりもかなりの努力と能力を要求されている。したがって、賞をたくさん取った先生の教室は、生徒の人数が多いという。

社会や経済事情が大きく変わって個人教室や私立学校が多く出現しているが、以上のような理由でフフホト市少年宮は大きな存在価値があると考えられる。少年宮のこのような事業内容は一つの大切な役割として、しばらくは中国で存在するだろう。その一番大きな理由は、少年宮の授業が地域の子どもと親のニーズに応えていると考えられるからである。

20 年前には、私立の個人教室がなかったから、少年宮の各教室が大人気で、入ることは難しかった。しかし、近年、少年宮の教室は、社会一般の塾や習い事などのさまざまな教室との競争があるために、生徒の募集が昔より難しくなった。子ども達が、ごく自由に少年宮の教室に入ることができる状態になってきた。そのような状況ではあるが、少年宮の先生は生徒の人数が収入に大きく関係するので、生徒募集にはいろいろな工夫をしているのである。

2.『各専攻授業の綱要および授業計画』

フフホト市少年宮は、『各専攻授業の綱要および授業計画』という学習指導要領のような計画書を策定している。

この『授業計画』の中で、各専攻の授業には、授業の目的、統一した教材が必要とされ、授業の到達する基準などが定められている。また、授業の時間数や、指導方法や評価の基準なども決められている。筆者の手元に、1998 年 12 月の最新計画書がある。それは、少年宮の先生たちが、少年宮での長年の授業の経験を生かして、真剣に検討した結果を決めたものである。また、楽器などの専攻は、国家芸術教育委員会が制定した資格試験の基準教材を参考にしている。

『授業計画』の目次から、本計画では、少年宮の全部 29 専攻中の 17 の専攻について、詳しい計画が書いてあることが分かる。それは、舞踊、声楽、ピアノ、アコーディオン、バイオリン、エレクトーン、古箏、揚琴、琵琶、トランペット、美術（デッサン）、美術（色彩）、美術（初級）、書道、卓球、英語、模型工作である[7)]。

この『授業計画』の中、『琵琶専攻の授業綱要および授業計画授業綱要』を例として、紹介する。琵琶教室の教材は、『全国琵琶演奏（愛好者）の資格審査作品集』『国内および海外音楽の資格審査』『少年児童の琵琶教材』などを参考に、先生が選択、編集した補助教材を取り合わせたものである。

まず、琵琶教室の目的は次のように決められている。①学生たちの祖国の文化遺産を愛する意識を育て、中華民族としての誇りと自尊心を強める。②学生たちの演奏技能、技巧および独奏、合奏の能力を育てる。③聴覚、視覚、触覚、運動神経などの総合的な能力を育て、音楽に対する素質および審美能力を高め、学生たちの想像力と創造力を豊かにする。④学生たちの学習に対する正確な態度を育て、人生に対する強い意志や困難を乗り越える精神を確立する。

その次に、琵琶教室の内容および授業時間数は以下のようになっている。初級・中級・高級クラスについての練習曲や具体的内容が定められる。総授業時間については、初級クラスは 2 年、約 96 時間である。中級クラスは二年半～三年に決められ。高級クラスは三年～四年である。

それに授業の原則および要求も決められている。①順序に従って漸進する原則である。学生の個人能力・性格・興味などの具体的な状況に基づいて、それぞれの個性に対応する異なる教育を施す。②楽しんで学べる授業が原則である。授業中、学生の琵琶に対する興味をそそるように努力し、各種類の技法に対して、学生の習う状態を把握し、それに従って、練習曲、民間楽曲、民謡などを提供する。学生たちが困難を恐れる感情を抑制できるようにし、琵琶を習うことを、前向きな気持ちになって、より良い勉強ができるようにする。先生が、学生に対してよく褒めて、激励すべきである。学生の誤りを丁寧にただして、その理由を探り、解決方法を検討すべきである。要するに、学生の習う自信をなくしてはいけない。③科学性の原則である。先生が、学生たちに教えるときは、辛抱強く親切にしなければならない。そのうえに、厳格に知識や技法を伝えて、厳密な科学的な演奏方法を注意すべきである。また、音楽の基本知識、基本理論をつねに授業に取り入れて、授業内容を充実する。

そして、生徒に対し、初級・中級・高級各クラスには、成績審査および、段階の目標を具体的に決められる。特に、高級クラスには、勉強を通じて、プロのレベルに達した学生には、専門的な大学および芸術学院に琵琶の専門的な人材を送ることを目標にする。

三．フフホト市少年宮についての調査

筆者は、2004 年 3 月 20 日（土）と 3 月 21 日（土）及びその次の一週間、フフホト市少年宮のいろいろな教室を見学して、特に、琵琶教室、ダンス教室に密着して、授業の状況を調査し、記録した。以下の文章で、琵琶教室を例として、紹介する。

（一） 例とした琵琶教室

1. 教室概観

琵琶教室は、ほとんどの他の教室と同じく、専用の部屋があって、フフホト市少年宮の主館の 2 階にある。琵琶の先生は 30 代後半の女性で梁春梅という名前である。梁先生は内モンゴル芸術学院の琵琶専攻の出身で、1993 年からフフホト市少年宮に教師として担当を始めた有能な

先生である。梁先生の琵琶教室について、内モンゴルテレビ局、経済テレビ局などの番組が、特集として放送された。梁先生が指導した曲は、いくつかのコンクールで賞を取り、本人も、何回か「園丁賞」「優秀補導員賞」（教師賞）を得た。全国の少年宮では、琵琶教室が北京、河北省、四川省などの地域でたくさんあって、普及している状態である。フフホト市の梁先生の琵琶教室は、全国では四川省の教室についでトップレベルの教室である。

教室は個室と先生の事務所と練習用の教室という三つの部分で構成されている。事務所は、電話つきで先生の専用になっている。個室は 7、8 人が入れるスペースがあって、次の授業に早めに来た参加者の休む場所であり、低年齢な子ども達の練習の場でもある。教室の机は縦に二列で 6 個ずつあり、横が 4 個あって、U 字型にあわせ組み、合計 16 個が並んでいる。

その机の後ろに 2 列の椅子が置かれ、生徒と親の席となっている。中国の独特な風景かもしれないが、少年宮の各教室のレッスンには、生徒の親がほぼ同伴している。特に、楽器の教室はそうである。というのは、授業が終って、家での練習と宿題をするときに、指導と監督が必要であるからである。親がレッスンについていかないと、子どもの琵琶の練習の間違いを注意したり、アドバイスができなくなる。また、レッスン中にも、後ろに座った親が子どもに注意をしたり、子どもの勉強事情などを先生に説明したりしていた様子が多くみられた。1 週間の間に、梁先生は 5 つのクラスの授業を行っていて、学生数は 100 人に近い。

教室の後ろの壁に予備の琵琶が 20 個くらい掛けられていて、見学者や琵琶を持参していない生徒が自由に使える。レッスンの必要品としては、琵琶とカセットテープがある。琵琶は生徒たちがたいてい各自持参している。琵琶は子ども用と大人用に分けられていて、値段の格差は大きく、200～300 元（約 3000～4500 円）は普通である。梁先生が、長年の経験を生かして、独特な授業法を作り出した。梁先生の授業の特徴として、子どもにも大人用の琵琶で習わせることで、人気を呼んでいる。カセットテープは先生が模範演奏するときに録音させて、復習の時、自宅で利用させている。たまたまそれを忘れた子どもが先生に厳しく注意されていた風景も見受けられた。

授業が始まる前に子ども達が琵琶を持って並んでいて、順番に梁先生に琵琶の音を合わせてもらう。そのうちに、各自の練習時間が始まる。授業の始めには、先生が宿題の仕上げを確認し、次に合奏やグールプを分けて行い、一人ずつに点数をつけて評価する。梁先生は基本的に子ども達を褒めるが、間違ったところは厳しく注意していた。また、子ども達に練習中でも公演のつもりで演奏すべきだと強調し、演奏の表情や仕草などを模範演奏した。

琵琶の授業中、先生が基礎知識を重視していて、基礎技法について生徒に多く説明し、厳しく注意している。授業中、先生が遅刻した親や生徒を注意したり、家で練習と宿題について尋ねたり、言葉使いにも厳しいときがよくある。また個人に対する指導をしたり、喋る子どもと忘れ物をした子どもに注意をしたりしていた。琵琶教室の宿題は、毎回あって、覚える曲の弾き方や練習の回数まで決められる。特に、週末や冬・夏休みのとき、宿題がたくさん出される。

教室の黒板に、教材や音譜を張って学習を進める。授業中は、生徒は飲料を飲むことが許されている。

琵琶教室は、全員が女の子で、一番年下は 4 歳で、5 人いた。低年齢の子ども達が個室で練習することになっていて、梁先生がときどき中に入って指導している。教室では、1 年生から 6 年生の女の子が多い。ある 4 歳の子がずっと外に出て、梁先生の側にいて泣き続けていた。梁先生が慰めながら、個室と教室の授業が続けられていた。このような光景は毎日あるそうである。授業中、梁先生が見学者に琵琶を持たせて、持ち方などを教えた。また、授業中、何回か電話がかかってきており、その内容は琵琶教室の参加や見学について尋ねるものだった。教室の外は、覗く人がたびたび来ている。授業が終るころに、梁先生がいつもの宿題を出していた。

梁先生の琵琶教室では、中退する生徒が少ないという。その大きな理由としては、先生としての役割を、しっかりと果たしていることが挙げられる。少年宮の各専攻の特徴は異なり、生徒の人数などにも格差があるが、少年宮の先生たちは、みんな勤勉で力を尽くしている。梁先生は授業中、親と子どもの心理的な動きを掴んで対応している。梁先生は、一番大事なことは、子ども達を愛し、すばらしい人材に育てたい気持ち、使命感持つことだと言っておられた。授業以外にも、親と子ども達に時間をみつけては声をかけ、琵琶の練習状態や意見などを聞き、コミュニケーションを取るように心がけている。いろいろな形のコミュニケーションによって、先生が子どもとの距離を縮められて、より良い授業に努めている。

いつも、教室では、子ども同士の会話がまったくみられないが、実は、琵琶教室が、レッスン以外にいろいろなコンクールの参加によって子ども達の交流を深めている。コンクールの参加のためにたくさんの練習を重ねて、子ども同士のお互いの協力が重要な教育内容になる。そして、公演などで他の町に行くことによって、子ども達の性格や生活習慣などの教育も大切な内容になってくる。梁先生は子ども同士の良い関係を築くことも大切と考えており、それは琵琶教室からの退学の予防策の一つになると考えていた。

少年宮の他の教室の授業はここで紹介した琵琶教室の授業とほぼ同様に行われている。

（二）アンケート内容

モデル調査として、自らアンケート用紙を作って行った[8)]。その内容の概略は、以下のとおりである。

1．調査対象：　内モンゴル自治区フフホト市少年宮の琵琶教室と、ダンス教室の生徒の親である。

2．調査実施期間：2004 年 3 月（3 月 20 日配布　回収は 1 週間後）

3．標本数：　琵琶教室とダンス教室の生徒の親を対象に 50 部を配布し、38 部を回収した。

4．回収率：　約 76%

5．調査方法：　調査対象の親から自らの考え方および、少年宮に通っている生徒の状態など

を、正直に答えてもらうため、アンケート用紙は無記名式とした。少年宮の現実に関係する意味があるアンケート項目をつくるために、琵琶教室とダンス教室に何回か通って、先生と親と子どもたちに声をかけて、いろいろな話を聞いた。そして、少年宮の行政側の方にも何回か尋ねて、関係する情報を入手した。中国の少年宮の先生が、学校の先生と同じく非常に尊敬され、親に影響力があることから、琵琶教室の梁春梅先生、ダンス教室の高娃先生、薩拉先生にも協力いただいた。アンケート項目を策定するにあたり事前に 3 人の先生方に相談をした。また、アンケート用紙を親に配布、回収する時に、アンケートに真剣に答えてもらうよう、先生たちに声をかけてもらった。アンケートの質問を、誰もいない場所でじっくり考えながら答えることができるように、配布から回収までの期間を一週間とした。

四．調査の分析

中国では、社会教育という言葉さえ聞いたこともない親が大部分を占めており、少年宮に対する認識が、親にとっては難しいのではないかと考えた。したがって、アンケートでは、抽象的な言葉はなるべく避けて、具体的に書いてもらう形にした。そうすることにより、回答者は、具体的に考えるのではないかと考えた。また、かつて中国では、国や共産党に対して批判的な意見を述べるだけでひどい目にあう時代もあったから、少年宮という公的な施設に対してははっきりと不満が言えないのではないかという心配もあった。だから、アンケート用紙を選択式の質問にしたが、その数値だけを求めれば表面的な結果となり、少年宮に対する真の声は把握できないものと判断した。しかし、傾向を知るだけではなく、実際に親が経験した生の声を聞きたいと思い、記述式の質問項目も含んだ調査方式で実施した。

ここからは、今回行った調査の結果を分析していく。アンケート項目の 21 について全体的な傾向について考察する。

まず、アンケートに回答してくれた親 38 人のうち、父親が 6 人で 16%、母親が 32 人で 84%であった。親の年齢層は、30 歳～35 歳が 10 人で 26%、35 歳以上が 28 人で 74%であった（項目 1)。中国では、大部分が共働きとは言え、子育てや子どもの教育は、日本と同様で母親に任せる傾向がある。

回答者の学歴は、高卒が 6 人で 16%、短大が 14 人で 36%、大卒が 11 人で 29%、大学院が 3 人で 8%、その他は 4 人で 11%が中専（中卒後に入る専門学校）であった（項目 2)。ここで、筆者が驚いたのは、アンケート調査の中で、選択式の項目に対しては、全員が答えたが、記述式の項目に対しては、学歴が高い親がたくさん書き込んでいたが、学歴が低ければ低いほど無回答や簡単に書き込む傾向であった。

今回のアンケート調査は、対象を琵琶とダンス教室にしたので、項目 3 番の答えは、38 人の全員女の子であった。

アンケート項目 4 番のうち、現在、少年宮に参加している子どもについては、10 歳が 12 人で 32%、11 歳が 8 人で 21%、12 歳が 16 人で 42%、13 歳以上が 2 人で 5%であった。

項目 5 番については、34 人で 90%の子どもが少年宮で一つの教室しか通っていないが、残り 4 人で 10%は 2 つの教室に通っている。つまり、少年宮での 2 つ以上の教室を利用している子どもは少ないということであった。

項目 6 番、少年宮に通い始めた年齢については、5 歳からが 16 人で 43%、6 歳からが 10 人で 26%、7 歳からが 8 人で 21%、8 歳からが 2 人で 5%、9 歳からが 2 人で 5%である。

項目 7 番、少年宮を卒業する予定年齢としては、12 歳まで予定しているのが 8 人で 21%、13 歳までが 2 人で 5%、14 歳が 18 人で 48%、15 歳、16 歳、18 歳までは各 2 人で 5%、未定が 3 人で 8%の、17 歳までが１人で 3%であった。

項目 8 番、子どもが少年宮に参加する希望について、子ども本人の意志で参加したが 14 人で 36%、父母の意志が 9 人で 24%、父母の意志で子どもの同意を得たが 12 人で 32%、周囲の大人と子どもの影響を受けたが 3 人で 8%であった。中国の都市では、子どもが少年宮に参加することが、ごく普通なことである。

項目 9 番、子どもが少年宮の教室に通う前に、親が見学したかどうかについては、27 人で 71%が見学していなかった。見学したのは 11 人で 29%であり、一回見学した親が 2 人、2 回が 3 人、多数見学したのが 7 人であった。

子どもを今の教室以外に少年宮の他の活動に、参加させるつもりがあるのか、という質問項目 10 番では、33 人で 87%の親は「ない」と答えた。残り 5 人で 13%の親は、子どもに英語、卓球、美術などの教室に通わせるつもりということであった。

アンケート項目 11 番、少年宮に通う子どもが一番楽しいことについては、無回答が 3 人で 8%であった。答えたのは 35 人で 92%であった。その中は、地元や他の地方を公演で子どもが一番楽しいというのが 16 人で、具体的公演のテーマや場所も書いてくれた人もいた。そして、たくさんの友たちができることが 5 人、同年齢層の子ども同士のコミュニケーションができることが 3 人いた。その他に、賞をもらった時や、専門的な各級の資格を取得したや、少年宮で好きなことやっている時や、授業に行く時などの答えもあった。

項目 12 番の少年宮の仕事に満足しているところについての答えのうち、無回答は 15 人で 39%であった。他、2 人で 5%が「ない」と答えて、３人で 8%が「普通」と答えた。「満足しているところがある」と答えた人は 39 人で 48%であり、具体的には、場所が広くてよい。便利である、子どもの趣味ができるなどがあった。また、少年宮の先生の責任感が強くて、真面目であることや、他地方での公演中の管理がしっかりしていることもある。他地方での公演は、学校の勉強に邪魔にならないように、学校の都合に合わせてくれることや、子どもがいろいろな地域に行けて、視野を広げられることもある。公演によって、舞台経験を積みかさねることや、人生経験も得られることなどがある。また、少年宮の学籍管理がしっかりしていることで満足

している答えもある。

項目 13 番、少年宮以外の塾については、「参加していない」と答えた人は７人で 18%であった。他に 31 人で 82%の子どもが、少年宮以外のいろいろな所でさまざまな塾に通っているということであった。平均すれば、一人の子どもが他の２つの塾や教室に通っている。家庭教師がついている子どももいた。少年宮以外での学習内容としては、英語、数学、作文が 80%に占めていた。その他、体操などのスポーツやチェスもあった。

項目 14 番､親に子どもが少年宮の予習や宿題をする時に監督や手伝いをしますかの質問については、無回答が 11 人で 29%であった。「監督や手伝いをしない」という答えが 20 人で 53%であった。残りの 7 人で 29%があると答え、予習や宿題の手伝いしている人、先生の授業内容や狙いなどを説明する人、子どもに興味を持たせるように指導する人がいた。

項目 15 番、少年宮と学校の違いについて、無回答は 7 人で 18%であり､「両者の区別がない」と答えた人が、8 人で 21%であった。残りの 25 人で 61%は「区別がある」と答え、一番多かったのは、学校は知識を教える場所で、少年宮は趣味や特徴ある専門的技能を教える場所という答えで、10 人もいた。他は、少年宮の勉強時間が短く、各教室の人数も学校より少ないという答えもあれば、少年宮では趣味関係の教室が多くて、形が自由で活発であるという答えもあった。また、学校は知識を重視しており、少年宮は技能や趣味を重視する面があって、少年宮のほうが専門化、系統化していて、専門的な級段の資格を目指せることがあるという答えもあった。少年宮の勉強を通じて、子どもの生活知識が増え、内面的な成長が見えるという答えもあった。

項目 16 番、少年宮に増加すべき活動があるのかという質問につては、無回答が 22 人で 58%であって､「ない」と答えた人が 3 人で 8%であった｡「ある」と答えた人の回答は 13 人で 34%、いろいろな意見があった。それに、折り紙などの遊ぶ活動を入れてほしいことや、さまざまな交流活動を行ってほしいという意見もあった。テニス、体操などのスポーツ活動を増やすべきや、その関係の道具を購入すべきという意見もあった。子ども達に対して学校外知識を教えるべきや、子ども達の内在的な資質を重視すべきという意見もあった。また、少年宮の全体の入学式と卒業式をすべきや､成果報告についての展示･講演などの活動を増やすべきという意見もあった。それに、優秀な子どもに対する奨励･評価、少年宮に対する投資や管理などの行政面を強めるべきという意見もあった。その他、公開講座を設けるべきなどの意見もあった。

項目 17 番、子どもが毎日遊ぶ時間については、１時間以下が 4 人で 11%、1～2 時間が 22 人で 58%、2～3 時間が 7 人で 18%、3～4 時間が 5 人で 13%であった。

項目 18 番､子どもが毎日テレビやゲームしたりを遊ぶ時間については､1 時間以下が 13 人、1～2 時間が 20 人、2～3 時間が 5 人であった。

項目 19 番、少年宮に参加した子どもの変化については、無回答が 9 人で 34%、変化が少ないあるいは変化がないという答えが 3 人で 13%であった。変化があったという答えが 26 人で

53%、全員が良い方向に変わったと書いてあった。最も多かったのは、子どもが明るくなって、体も丈夫になったという感想が多かった。子どもに自信がついた、言葉の表現力、理解能力などが上手になったと言う親もいた。子どもの総合的資質が高められ、良い習慣が身についたと言う親もいた。また、公演を通じて、独立能力が高くなり、表現力も高められたという感想を持った親がいた。具体的に、ダンス教室を通じて、子どものスタイルがよくなった、協調性やリズム感が上達したや、絵画教室で観察力、表現力が上達したなどの感想もあった。

項目 20 番、少年宮の認識については、無回答が 15 人で 39%であった。この他、23 人で 61%の人は、少年宮は子どもの楽園で、子どもが自由に利用できる場所や、普通の施設より良い施設という書いた親がいた。また、私的な施設と違って、一般大衆のための施設で営利目的のない公共事業を主にする施設であると書いた人もいた。子ども達が健康的に成長していくことや、専門的な技能および専門的な技能の基礎を身につけさせる施設であると書いた人もいた。また、子ども達の集団生活能力など総合的な能力を育て、子ども達の徳・知・体の全面的な発展をさせる施設であると書いた人もいた。その他、子ども達の趣味や特長を伸ばし、個性を重じる施設でもあると書いた人もいた。そして、請け負う形の施設でもあるという認識もあって、つまり、少年宮が個人たち（先生）に任せられたような感じがするという意見もあった。

項目 21 番、少年宮に対する不満については、無回答が 18 人で 48%、「不満がない」という答えが 15 人で 39%であった。「不満がある」と答えたのは、残り 13%の 5 人だけだった。不満の内容は、授業の内容が多すぎ、もっと子どもを主体として扱うべきという意見がある。また、私立施設に比べると、衛生面や設備の充実が足りない。社会的な活動が多すぎるという意見もあった。そして、各教室が先生の独自の指導で成り立っていて、少年宮の全体的な指導が見えないという意見もあった。

以上はアンケート調査結果から全体を集計した傾向であった。

筆者が今回調査した理由は、日本も中国も、社会教育施設を利用している人びとが、その施設に対する認識レベルが非常に重要だと考える。なぜならば、その認識レベルによって、国やその地域の社会教育の現状が見えてくる。また、存在する問題や課題もその解決の糸口も見えてくるはずだと思ったからである。例えば、アンケート調査で、学校と少年宮は区別がないと答えた親も少なくない。それは中国社会教育の一つの現状が現われているものと考えられる。中国では、社会教育に対して、行政の指導力が特に強い特徴があると考えられる。また、子どもの学校外教育、社会教育、生涯学習などの理念や認識は、まだ一般市民に知られていない。

以上のように、筆者の現地調査やアンケート調査結果によると、フフホト市少年宮の事業が、教室を中心としていると思われる。例えば、アンケート項目 10 番に、「子どもに少年宮のほかの活動に参加させるつもりあるのか」という質問に対して、「ある」と回答した人の中で、全員が将来に役に立つ英語などの教室に参加させたいという回答があった。子どもに少年宮の教室以外の別の文化活動に参加させたいと答えた人は、一人もいなかった。教室に関係する事業の

量が圧倒的に多く、住民や子どもが、主体とした自主的な活動がまったくないという状況であるからと思われる。

少年宮の部屋は開放されていない。他の団体などが借りられることはできるが、ごく希である。教室の大部分は少年宮内の職員の先生が責任を持って管理し、教室を開いている。少年宮以外の人たちに部屋を貸す場合は、決められた金額を少年宮に納めることになっていて、しかも、決して低額ではないという。少年宮の先生は、生徒の数が多ければ、２クラス、３クラスもしくはそれ以上のクラスを担任している。その生徒の数によって、先生の収入も違ってくる。このような姿は少年宮の持つ公的な性格が薄れ、利益優先の時代に流されているようにも考えられる。現代という時代において、少年宮の根本的な位置づけについて再度検討し、少年宮の社会教育施設としての役割を再考すべきであると思う。

今回の調査の結果で、たくさんの有力な情報が入り、これで得たものを活用し、これから日中両国の青少年を中心する社会教育の比較研究に役立つように検討していく予定である。

＜注＞

1) 中国児童センター編『校外教育学』（学苑出版社、2002 年 8 月、中国語）Ｐ.606。
2) 前掲書　Ｐ.613。
3) 『内蒙古自治区地図冊』（中国地図出版社、2004 年 1 月、中国語）P.5。
4) 内蒙古老科協測絵工会（組合）編制　『最新版　呼和浩特市交通遊覧図』（内蒙古人民出版社、2004 年 3 月、中国語）。
5) 少年宮のパンフレット（中国語）による。
6) フフホト市少年宮の入口の立て看板を筆者が日本語に訳した。
7) 『呼和浩特市（フフホト）少年宮　各専攻教学綱要及教学計画――1998 年 12 月』前言（中国語）
8) 筆者がつくった『少年宮に通っている生徒の親御さんに対するアンケート』による。
（この調査は、フフホト市少年宮に通う生徒の親御さんの方々にご協力をお願いし、市少年宮を利用する子ども達の実態を把握したうえに、日本の類似する施設との比較研究および中国の社会教育の改善に役立てることを目的として行います。
本調査用紙は、論文を書くための全体としての集計データついて調べるもので、個人の回答結果を公開することは決してありません。答えてくれる方に少しでも不便なことやご迷惑をかけませんので、ご安心ください。調査用紙は合計 4 枚ですから、ご注意をお願いします）

2004 年 3 月 20 日

性別　　①男性　②女性（丸をつけてください）

1.　あなたの年齢層を教えてください。
①20～25 歳　　②25～30 歳　　③30～35 歳　　④35 歳以上
2.　あなたの学歴を教えてください。
①高卒以下　　②高校卒業　　③短大卒業
④大学卒業　　⑤修士・博士　　⑥その他（　　）
3.　お子さんは　　①男の子　　②女の子
4.　お子さんはおいくつですか。
①5 歳　　②6 歳　　③7 歳　　④８歳　　⑤９歳
⑥10 歳　　⑦１１歳　　⑧12 歳　　⑨13 歳
5.　お子さんが少年宮でいくつかのクラスに参加していますか。クラスの内容を詳しく書いてください。
①1 つ（　）　②2 つ（　）（　）③3 つ（　）（　）（　）　④3 つ上（　　）
6・　お子さんが何歳から少年宮に入りましたか。当時はいくつでしたか。
①（　　）年（　）月から少年宮に参加した。　　②当時は（　　）歳
7.　お子さんを何歳まで少年宮に行かせたいですか。

①（　　）歳　　②その時まで（　　）年（　　）ヵ月ありますか。

8・ お子さんに少年宮に参加させたのは、誰の提案でしたか。
①お子さんのお祖父さん、お婆さん　　②お母さん、お父さん
③お子さん自身　　④周りの親御さんや子ども達の影響
⑤その他の理由(　　)

9. お子さんが少年宮に入る前に、施設の見学したことがありますか。
①ある。（　　）回　　②ない

10. お子さんを少年宮の他の活動に参加させるつもりありますか。
①ない　　②ある
以上に②番の「ある」と答えた人は、いくつあるのかを詳しく書いてください。
①１つ（　）　②　２つ（　）（　）　③　3 つ（　）（　）（　）　④　3 つ以上（　　）

11. お子さんが少年宮に参加してから楽しくなったことがあると思いますか。あると思うなら、詳しく教えてください。

12. あなたが、少年宮に対して、良いと思って満足しているところがありますか。詳しく書いてください。

13. お子さんが、少年宮の活動以外に、他のところで教室や活動に参加していますか。ある場合、詳しく書いてください。
①ない。　②ある。(　　)

14. あなたは、いつもお子さんが少年宮の宿題をするとき、側にいて協力したり監督したりしていますか。
①ない　　②ある。(　　)

15. 少年宮と学校は、区別があると思いますか。あるとしたら、どのようなことがあると思いますか。
①ない　　②ある。(　　)

16. 可能であれば、少年宮でどんな活動や運営の方法、仕方、又新たに増加すべき活動について、意見を教えてください。

17. お子さんが毎日平均して、遊ぶ時間はどれくらいありますか。
①1 時間以下　　②1 時間～2 時間　　③2 時間～3 時間
④3 時間～4 時間　　⑤4 時間以上

18. お子さんが、毎日平均してテレビをみたり、テレビゲームをやったりする時間は、どれくらいありますか。
①1 時間以下　　②1 時間～2 時間　　③2 時間～3 時間
④3 時間～4 時間　　⑤4 時間以上

19. お子さんが少年宮に入ってから、変化したことがありますか。ある場合、詳しく書いてください。
①ない　　②ある。(　　)

20. あなたは、少年宮がどんな施設だと思いますか。詳しく書いてください。

21. あなたが、少年宮の仕事や対応について、足りない点や不満がありますか。あれば、詳しく書いてください。
①ない　　②ある。(　　)

以上　どうもありがとうございました。

主指導教員（井上正志教授）、副指導教員（成嶋隆教授・斎藤勉教授）